

2025年12月8日作成 Ver.1.0
2025年12月22日作成 Ver.1.1
2026年2月3日作成 Ver.1.2

《情報公開文書》

頭蓋内アテローム硬化による急性脳主幹動脈閉塞予測モデル作成と予後

研究の概要

【背景】

脳の太い血管がつまって起こる脳梗塞に対して、カテーテルを使った再開通療法が行われます。再開通すれば、症状が改善する可能性が高まります。しかし、つまり方によって再開通率に差があります。動脈硬化が原因でつまると、再開通が得られにくく、症状が改善しないことにつながります。動脈硬化でつまっていることを推測する所見は、カテーテル治療中の造影所見であり、術前に予測する良い方法は今のところありません。

【目的】

当院に入院した脳の太い血管がつまった脳梗塞に対してカテーテル治療を行った患者さんを調べて、動脈硬化でつまったことを予測する方法を調べるのが目的です。特に、MRI 画像のデータを検討します。また、カテーテル治療後の症状の経過も評価します。

【意義】

動脈硬化で脳血管が閉塞したことを、術前に予測できれば、治療方針を早めに検討することができ、再開通に繋がる可能性が高まります。どのような治療が適しているか分かる可能性があります。

【方法】

長崎大学病院脳卒中センターに入院した脳梗塞で、脳の血管がつまりカテーテルによる再開通療法を受けた患者さんの情報を用います。得られた情報や画像をもとに、統計解析を行い、動脈硬化で脳血管がつまっていることを予測する計算式を作成します。また、退院後の経過を外来で聴取します。

対象となる患者さん

2016年1月1日から2028年3月31日の間に長崎大学病院脳卒中センターに入院し、脳梗塞と診断され、カテーテルによる再開通療法を受けた患者さんです。年齢は18歳以上としています。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- 年齢や性別など基本的な情報
- 神経診察所見
- 血液データ、画像データ
- 外来で聴取した治療経過

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日／提供開始予定日

本研究は2026年2月5日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2031年3月31日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 脳神経内科 氏名：立石 洋平 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7 2 6 5
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 脳神経内科 立石 洋平

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095 (819) 7 2 6 5 FAX 095 (819) 7 2 6 5

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）